

うっかりミスで運航不能に！

プレジャーボートを操縦される皆様

～燃料不足・バッテリー過放電に気をつけて～



1. はじめに

長崎事務所が管轄する九州西岸域は、多数点在する島々や入り組んだ海岸線など美しい景観が見られることから、プレジャーボートによるマリニレジャーが盛んな海域となっています。

平成 23 (2011) 年から令和 3 (2021) 年(注 1)までの間に発生し長崎事務所が調査対象としたプレジャーボートの事故及びインシデント(事故等)の件数は、近年では年間 40~50 件前後で推移しています。また、令和 3 (2021) 年は 6 か月間で前年の半数に達しており、高止まりの状況が続いています。(図 1 参照)

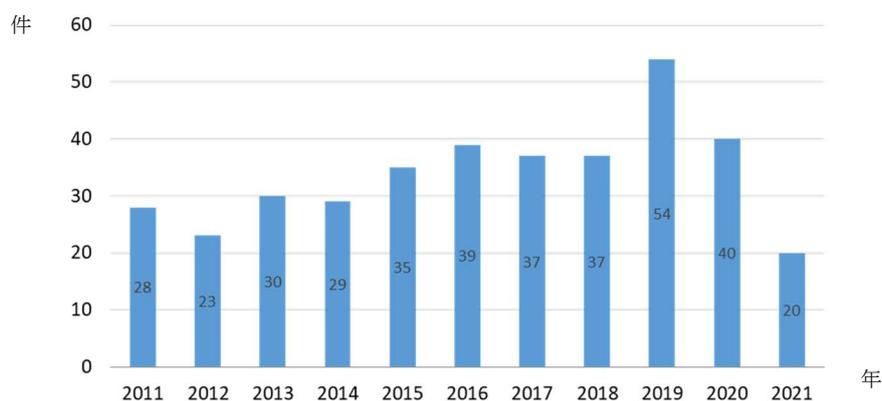


図 1 プレジャーボート事故等の発生状況

このうち、少しの注意で未然に防止できるうっかりミス(燃料不足・バッテリー過放電(注 2))による運航不能インシデントについては、平成 31/令和元(2019)年以降増加しています。また、これに伴いプレジャーボート事故等全体に占める割合(折れ線)についても増加傾向を示していることが分かります。(図 2 参照)

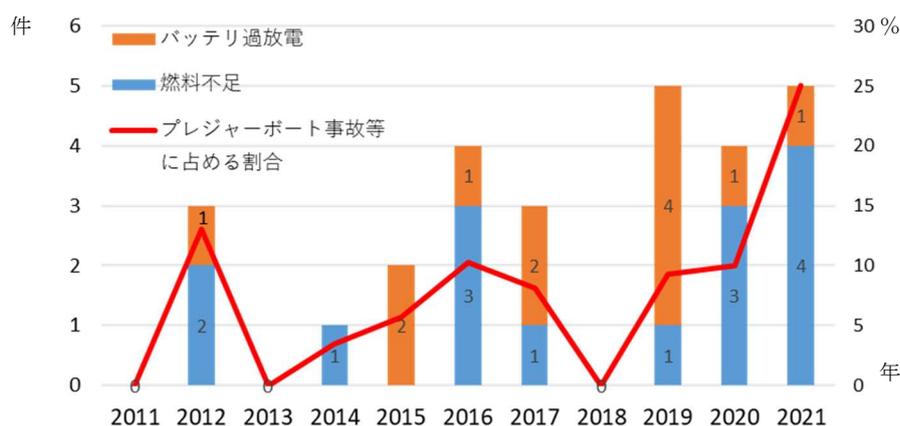


図 2 運航不能インシデント(燃料不足、バッテリー過放電)の発生状況及びプレジャーボート事故等に占める割合

うっかりミスによって海上でエンジンが停止するとさらなる事故を引き起こすおそれもあります。そこで、このよううっかりミスをテーマとして、4つの事例を紹介しながら、同じような事故等の防止に向けたポイントを示していきたいと思ひます。

注 1 令和 3(2021)年については、6月までに発生したものが対象

注 2 エンジン停止中に電子機器を使用することなどにより、バッテリーが充電不足の状態となる、いわゆる「バッテリーあがり」

2. 最近の発生事例

事例1 燃料の残量を確認していなかった

プレジャーボートAは、錨泊して釣りを行った後、帰航しようとしたところ、エンジンの始動ができませんでした。

プレジャーボートAは、同乗者が118番通報し、来援した海上保安庁の監視取締艇によりえい航されました。

船長は、満タンとした後、釣りを3回行いましたが、給油をしていませんでした。

船長は、出航前に、燃料の残量を確認していませんでした。

船長は、船外機を確認したところ、燃料タンクが空になっていました。

プレジャーボートAは、燃料を給油したところ、エンジンが正常に始動できました。



◎ポイント

出航前に燃料の残量を確認しましょう！

事例2 燃料消費量を把握していなかった

プレジャーボートBは、遊覧を終えて帰航中、エンジンが停止しました。

プレジャーボートBは、風潮流の影響でマリナーに流れ着き、船長がエンジンの状況を見たところ、燃料タンクが空になっていたため、マリナーの管理人から燃料を補給してもらって帰航しました。

船長は、出航前に燃料タンクを見たところ、約18ℓの燃料が入っており、1時間30分程度なら運航できると思い、補給せずに出航しました。

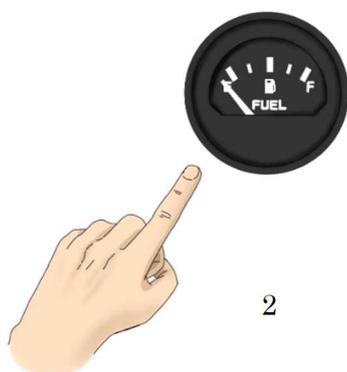
船長は、エンジンを常時最大出力で使用していました。

船長は、本インシデント後、プレジャーボートBが最大出力で運航した場合に1時間で約20ℓの燃料を消費することを知りました。



◎ポイント

エンジンの運転状態に応じた燃料消費量を把握しましょう！



事例3 予備の燃料タンクを積み忘れてしまった

プレジャーボートCは、釣りを終えて帰航中、エンジンが停止しました。

操縦者は、燃料タンクに燃料油がなくなったことを確認した後、燃料油を補給しようとしたところ、予備の燃料タンクを積み忘れたことに気づき、搭載していたオールで漕いだものの、風に圧流され、帰航することが困難と判断し、海上保安庁に救助を要請しました。

プレジャーボートCは、来援した海上保安庁の監視取締艇にえい航されました。

操縦者は、ふだんから燃料油が不足すると、携行していた予備の燃料タンクから補給しながら運航していました。



◎ポイント

予備の燃料タンクを忘れずに携行しましょう！

事例4 エンジンを停止した状態で複数の電子機器を使用した

プレジャーボートDは、エンジンを停止して漂泊中、約1時間、魚群探知機能内蔵のGPSプロッター及びレーダー等の電源を入れて釣りを行った後、帰航しようとしたところ、エンジンの始動ができませんでした。

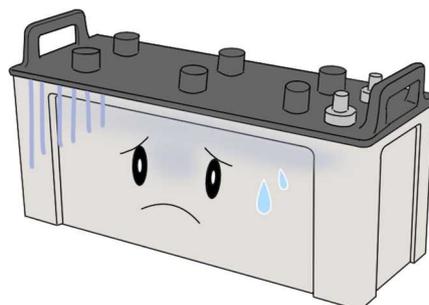
船長は、しばらくして再び始動を試みたものの、エンジンの始動ができなかったため、海上保安庁に救助を要請しました。

プレジャーボートDは、来援した海上保安庁の巡視艇によってバッテリーを充電してもらったところ、エンジンの始動ができたので自力で帰航した後、バッテリーが交換されました。



◎ポイント

エンジンの停止中は、GPSプロッター・魚群探知機等の複数の電子機器を長時間使用しないようにしましょう！



3. まとめ

どんなにエンジンの調子が良くても、燃料がなくなったり、バッテリーが過放電したりすると運航不能になってしまいます。

ボートの燃料消費量は波や潮流、風の影響などで大きく変わりますので、ふだんと同じ海域、同じ走行距離であっても、その日の気象状況を考慮して最大の消費量を予測しておきましょう。

また、バッテリーのトラブルは海上での対処が難しいため、エンジン停止中の電子機器の長時間使用等によるバッテリー過放電には十分に気をつけましょう。

海上でエンジンが使えなくなると、**風波に圧流されて岩礁に乗り揚げたり、転覆してしまうおそれ**があります。うっかりミスには十分に気をつけましょう。

燃料不足・バッテリー過放電で運航不能にならないために

- 燃料の残量及び消費量を把握し、しっかりと給油しましょう。
- 予備の燃料タンクを忘れずに携行しましょう。
- エンジンの停止中は、GPSプロッター・魚群探知機等複数の電子機器を長時間使用しないようにしましょう。
- バッテリーは、日頃から電圧や液量を確認し、適切に交換しましょう。



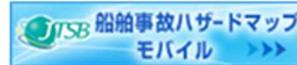
上図の◆は、燃料不足・バッテリー過放電による運航不能インシデントを示しています。



運輸安全委員会のインターネットサービス

船舶事故ハザードマップ

～地図から探せる事故とリスクと安全情報～



事故等の種類と場所が一目で分かります。
 から最新の気象状態が分かります。
 から沿岸のライブカメラ映像を見ることができます。



船舶事故ハザードマップ

<http://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/>



小型船舶機関故障検索システム (S-ETSS)

小型船舶の機関故障事例の検索ができます！
 発航前点検を確実にし、エンジン故障を防ぎましょう！

故障部位件数ランキング

故障部位	故障部位(件数)	合計 14 件
<input checked="" type="checkbox"/> 機関本体	ピストン	3
<input checked="" type="checkbox"/> 電気系統	セルモータ	3
<input type="checkbox"/> 機関本体	シリンダタイ	2
<input type="checkbox"/> 機関本体	燃料噴射ポンプ	2
<input type="checkbox"/> 機関本体	燃料噴射系統	2
<input type="checkbox"/> 機関本体	クランク軸	1
<input type="checkbox"/> 機関本体	クランク軸突	1

件数	機関名	発生日時	船種	船名	主機出力	機関配置型式	故障部位	原因
1	プレジャーボート Donon(東芝)	2018/11/06 12:00	プレジャーボート	SP-100	SP-100	船外機	電気系統	メインシフトは、本船は、燃料ポンプが燃料供給を停止してしま...
2	プレジャーボート Donon(東芝)	2017/11/23 14:00	プレジャーボート	SP-100	SP-100	船外機	燃料系統	メインシフトは、本船は、燃料ポンプが燃料供給を停止してしま...
3	プレジャーボート Donon(東芝)	2017/09/03 10:00	プレジャーボート	SP-100	SP-100	船外機	電気系統	メインシフトは、本船は、燃料ポンプが燃料供給を停止してしま...
4	プレジャーボート Donon(東芝)	2017/07/29 18:30	プレジャーボート	SP-100	SP-100	船外機	電気系統	メインシフトは、本船は、燃料ポンプが燃料供給を停止してしま...
5	プレジャーボート Donon(東芝)	2017/06/20 11:58	プレジャーボート	SP-100	SP-100	船外機	燃料系統	メインシフトは、本船は、燃料ポンプが燃料供給を停止してしま...
6	プレジャーボート Donon(東芝)	2017/05/03 20:40	プレジャーボート	SP-100	SP-100	船外機	燃料系統	メインシフトは、本船は、燃料ポンプが燃料供給を停止してしま...

小型船舶機関故障検索システム https://jtsb.mlit.go.jp/hazardmap/s_etss/



運輸安全委員会事務局長崎事務所

〒850-0921 長崎県長崎市松が枝町 7-29 長崎港湾合同庁舎 4 階

Tel: 095-821-3537 URL <http://www.mlit.go.jp/jtsb/>

